

2025 年 7 月 31 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 g u m i
代 表 者 名 代表取締役社長 川 本 寛 之
(コード番号: 3903 東証プライム市場)
問 合 せ 先 取 締 役 本 吉 誠
(TEL. 03-5358-5322)

第 18 回定時株主総会及び事業方針説明会 **事前質問及び当日質問に関するご回答**

2025 年 7 月 30 日（水）に開催した当社第 18 回定時株主総会及び事業方針説明会において、株主様より頂戴しました事前質問及び当日質問に対する回答を記載しております。

【第 18 回定時株主総会】

・事前の質問に対するご回答

ご質問①

「SBI ホールディングスにおける当社株式の買い増しについて」

当社は、2025 年 6 月 27 日付で、SUPER STATE HOLDINGS 株式会社（以下「SPST」）が保有していた当社株式 6,500,000 株につき、SBI ホールディングス株式会社（以下「SBI ホールディングス」）への譲渡が完了した旨の連絡を受けております。これにより、SBI ホールディングスの当社に対する持株比率は、発行済株式総数の 33.28%となりました。

今回の株式追加取得の目的につきまして、当社としてその意図を申し上げる立場にはありませんが、SBI ホールディングスとは、2022 年の資本業務提携以来、暗号資産取引所 BITPOINT における OSHI トークンの上場をはじめ、ブロックチェーン等事業において着実な成果を挙げてまいりました。直近では、2025 年 6 月に上場暗号資産を運用対象とするファンドの組成を決定するなど、戦略的な提携関係を一層強化しております。

さらに、SBI ホールディングスは、IP・テクノロジー・各種データを活用し、エンターテインメントとデジタルプラットフォーム全体で新たな IP 価値を創出する「ネオメディア構想」を掲げており、当社もその構想の実現に向けた事業パートナーとして、今後さまざまな取り組みを推進していく予定です。

なお、SBI ホールディングスより、株式公開買付（TOB）を行う予定はない旨、当社に対し通知を受けております。今回の株式買い増しは、これまでの取り組みに対する評価および今後への期待の表れであると理解しており、今後も同社との連携を通じて企業価値の最大化に努めてまいります。

また、SPST におかれましても、引き続き当社株式 6.85%を保有しており、資本業務提携関係は継続されております。今後も SPST とは、重要な戦略的パートナーとして、各種事業連携を図っていく方針です。

ご質問②

「ビットコインを含む暗号資産の取得について」

当社は、暗号資産市場がまだ黎明期にあった 2018 年より暗号資産分野に参入し、以来、最前線にて先進的な取り組みを継続してまいりました。

具体的には、優良な web3・ブロックチェーン企業への投資を目的としたファンドの組成、ブロックチェーンネットワークにおけるノード運営、さらにステーキングによるインカムゲインの獲得な

ど、複数の成長ドライバーを軸とした多角的な事業展開を推進しております。

取得した暗号資産については、単なる保有にとどまらず、戦略的な資産の入れ替えを通じて収益性と資産価値の最大化を図っており、その成果として、2025年4月期末時点における連結ベースでの暗号資産保有残高は75億81百万円、また当社が運営するファンドにおける暗号資産も119億85百万円へと拡大し、着実な成長を遂げております。

今後も、ビットコインをはじめとする有力な暗号資産を積極的に取得し、これまでに蓄積したポートフォリオ戦略に基づき、適切な運用を行うことで、中長期的な視点での資産の拡大および持続的成長を実現してまいります。

ご質問③

「株価上昇の施策について」

当社は、モバイルオンラインゲーム事業およびブロックチェーン等事業の双方において、収益力の強化を図るべく具体的な施策を実行しており、それにより企業価値の向上を実現し、ひいては株価の持続的な上昇を目指してまいります。主な取り組みは以下の3点になります。

① モバイルオンラインゲーム事業の強化

2025年9月にリリースを予定しております新作タイトル『ジョジョの奇妙な冒険』につきましては、当社全体で開発・運営体制を強化して取り組んでおります。

本作は既に事前登録者数が50万人を突破するなど、非常に高いユーザー関心を集めており、近年他社で大ヒットを記録したタイトルと比較しても遜色のない、極めて有望なスタートを切っております。当社は本タイトルを中核に据え、安定的な収益基盤の構築を図ってまいります。

② ブロックチェーン等事業における金融領域の強化

SBIグループとの連携強化、新たにTIS株式会社と共同で設立したHinode Technologiesの本格始動、さらにビットコインの追加取得などを通じ、成長著しい暗号資産市場において引き続き優位性を確保し、収益機会の拡大を図ってまいります。これらの取り組みは、当社のブロックチェーン等事業の収益構造をより一層強固なものにするものと考えております。

③ SBIグループとの「ネオメディア戦略」における連携

当社は、SBIグループが掲げる「ネオメディア構想」に参画し、アニメやゲーム等のIPを活用した新たな収益モデルの創出に取り組んでおります。

SBIグループが保有する金融インフラや顧客基盤と、当社のコンテンツ開発力およびIP活用の知見を掛け合わせることで、新たなメディア価値や収益源の創出を図ってまいります。

以上の3つの柱を軸に、当社は今後も企業価値の最大化と株価の持続的な成長に向けて、全社一丸となって取り組んでまいります。

・当日の質問に対する回答

ご質問④

「連結業績は黒字化している一方で、gumi 単体では赤字が続いている状況にあるが、この点についてどのように考えているのか。」

(回答者：川本)

当社グループは、gumi 単体に限らず、複数の子会社を含めたグループ経営を行っており、事業運営においては「コストプラス方式 (Cost Plus)」を採用するケースもあることから、個社単体の損益では事業の実態を正確に把握することが難しい側面があります。

たとえば、一部の子会社において開発等の費用を負担した上で、その費用に一定のマージンを上

乗せして gumi 本体に請求する仕組みをとっており、gumi 単体では一時的に費用計上が先行する構造となることがあります。

そのため、当社としましては、グループ全体の収益性や財務状況を的確に示すものとして、連結ベースでの業績を重視しております。今後もグループ全体での企業価値向上に取り組んでまいります。

ご質問⑤

「モバイルゲーム市場やブロックチェーン市場の先行きが不透明な中、より一層の事業多角化を進めるべきではないか？」

(回答者：川本)

モバイルオンラインゲーム事業においては、当社の中核事業として安定的な収益を確保すべく、これまで事業の立て直しに注力してまいりました。今後はさらなる強化を図ることで、盤石な安定収益基盤の構築を目指してまいります。

一方で、当社はベンチャー企業として、将来性のある成長市場に果敢に挑戦する姿勢を重視しており、特に爆発的な成長の可能性を有するブロックチェーン市場には、早期から注力してまいりました。なかでも、金融領域におけるノード運営やアセットマネジメントといった分野においては、着実に成果が表れつつあり、今後市場が本格的に拡大する局面においては、当社の成長が一段と加速するものと見込んでおります。

さらに、SBI グループとの連携による「ネオメディア戦略」にも参画し、当社がこれまで培ってきた IP 活用やコンテンツ開発の知見を活かしながら、IP を軸とした新たな収益モデルの創出にも取り組んでまいります。

このように、当社は複数の成長軸を有することで、中長期的な視点から持続的な企業価値の向上を図ってまいります。

【事業方針説明会】

ご質問①

「SBI グループと連携してネオメディア事業に取り組むとのことだが、その対応がやや遅れているのではないか？」

(回答：川本)

当社はこれまで、モバイルオンラインゲーム事業およびブロックチェーン等事業の二軸にて事業を展開してまいりました。2022 年には SBI ホールディングスと資本業務提携契約を締結しましたが、その後、当社においては大型ゲームタイトルの不振等もあり、一時的に経営資源の再配分および事業基盤の立て直しを最優先の課題として取り組んでまいりました。

一方で、SBI ホールディングスよりネオメディア構想が示されたのは本年初頭のことであり、当社としても事業の再構築が一段落し、成長フェーズに移行したタイミングと重なったことから、今後は両社の歩調を揃え、戦略的連携を一層強化していくことが重要であると判断しております。

現在、当該事業に関しては、両社間で具体的な実行フェーズに入りつつあり、今後の取り組みにぜひご期待いただければと思います。

ご質問②

「『ジョジョの奇妙な冒険』においては、既存のゲームエンジンを流用しているとのことだが、それにより開発コストはどの程度抑えられているのか？」

(回答：川本、本吉)

本タイトルに関する開発費の総額につきましては公表を差し控えますが、当社が過去に開発し、大きな成功を収めたゲームエンジンを活用しており、開発コストを大幅に抑える工夫をしておりま

す。

また、ゲームエンジンの再利用は、単にコストを削減するという効果にとどまらず、すでに運用実績のある開発チームが同エンジンで制作・運用を行うことにより、開発効率の向上とともに、ヒット確度を高めるという側面もあります。

このように、当社ではこれまでの成功資産を活用することで、効率的かつ確度の高いタイトル開発を推進しております。

ご質問③

「SBI グループとの連携により生まれる成果について、SBI 側にのみ利が偏り、gumi に十分な利益が還元されないのではないかと懸念している。」

(回答：川本)

SBI ホールディングスとは、資本業務提携を通じてご出資をいただいております。当社といたしましては、株式価値の向上と事業シナジーの双方を見据えた、長期的かつ戦略的な関係性を構築しております。ビジネス上の取引におきましても、当然ながらフェアな条件の下で実施しており、一方的に成果を持っていかれるような関係ではございません。当社の事業が成長し、収益を上げることで株主価値が向上し、その恩恵はSBI ホールディングスにも波及する構造となっております。

このように、当社とSBI ホールディングスは共に歩むパートナーとして、同じ方向を向いて価値創出を目指していると認識しております。

以 上